

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立深谷はばたき特別支援学校)

目指す学校像	子供が生き生きと学び、活動し、教職員が元気で活気のある学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 児童生徒一人一人の障害特性を踏まえた自立活動及び領域・教科を合わせた指導の充実 2 キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の編成と実践研究 3 共生社会の推進拠点としての取組の充実と開かれた学校づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					25年度評価(2月10日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○児童生徒一人一人の障害特性を踏まえた自立活動及び領域・教科を合わせた指導の充実に取り組む必要がある。 ○個別の指導内容、指導方法の事例の蓄積と教員の指導力向上に取り組む必要がある。	児童生徒の障害特性に応じた自立活動及び領域・教科を合わせた指導の充実 教員の指導力向上	①一人一人の障害特性に応じた自立活動の指導内容の充実と、個に応じた指導方法の工夫改善 ②教育支援プラン(A・B)の充実と効果的な活用に向けた検討 ③ポニーを活用した教育活動の充実と取組の評価 ④教員の指導力向上に向けた授業研究と校内研修会の計画的な実施	①障害特性に応じた指導内容の充実と指導方法の工夫改善に取り組めたか。 ①自立活動等に係る各種教材を有効に活用したか。 ②教育支援プランの充実に向けた検討は進んだか。 ③ポニーに係る活用機会の充実と研修に取り組めたか。 ④校内研修会の計画的な実施と共に教員相互の授業研究と授業評価に取り組めたか。	①自立活動部が個に応じた自立活動について積極的にアドバイスを実施し意識が高まった。 ②教育支援プランが効果的ツールとなるよう作成時期、記載内容等の検討を進めた。 ③ポニーの活用に向けた研修の実施。全職員による飼育体制を確立。 ④感覚統合理論による遊びの指導等教科・領域のを合わせた指導の充実を図った。	B
2	○児童生徒の発達段階を踏まえたキャリア教育の実践研究に取り組む必要がある。 ○自信を持って社会参加できる生徒を育成する必要がある。	キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の編成と実践研究	①卒業後の社会自立及び生活自立を目指した各学部における指導内容の段階的な整理 ②キャリア教育の視点を踏まえた学部研修の実施・充実 ③キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の編成と実践研究(職業学科(類型等)の検討を含む) ④民間企業等と連携した作業学習の充実(中学部・高等部) ⑤社会自立に向けた余暇利用に関する実践力の育成	①学部ごとの指導内容の整理と実践が進んだか。 ②キャリア教育の視点を踏まえた学部研修を実施したか。 ③教育課程の方向性と学科(類型)イメージの具体化に向けた検討が進んだか。 ④民間企業と連携した取組が進んだか。 ⑤学部段階に応じた余暇利用に係る取組や、部活動(運動・文化)に活発に取り組んだか。	①中学部においても「性に関する指導」に取り組んだ。 ②③キャリア教育の視点を踏まえ計画的な学部研修、指導内容の整理蓄積に取り組んだ。 ④企業向け学校説明会や計画的な職場開拓や情報交換を実施した。 ⑤運動部活動を中心に活発に取り組んだ。また、文化的な活動においても指導内容が充実してきた。	B
3	○成熟した特別支援学校として、センターの機能の充実と深化に努める必要がある。 ○学校情報の積極的な発信に努める必要がある。 ○安心安全な学校づくりに取り組む必要がある	地域支援・学校支援の充実 開かれた学校づくりの推進	①発達障害を含む幼児や保護者に対する早期支援(親子教室)の実践研究 ②支援籍の計画的な実施並びに高校と連携した取組の検討 ③教員個々の専門性を生かした教育支援の充実と公開講座の実施 ④学校公開・授業公開の計画的な実施と定着 ⑤学校施設の開放の推進 ⑥学校便りやHPなどによる地域や関係機関への情報発信の充実 ⑦学校危機管理体制の充実	①関係機関と連携した推進組織は構築できたか。 ②計画的に実施できたか。また高校と連携した取組の検討は進んだか。 ③要請に応じ支援はできたか。公開講座は実施したか。 ④⑤計画的に学校公開、授業公開、施設開放を実施したか。 ⑥学校情報の発信は進んだか。 ⑦緊急時の安定した情報発信システムを整備したか。	①②早期支援に向けた地域支援連携会議を設置。親子教室を実施し早期支援も進めた。支援籍学習は質・量共に充実してきた。吹上秋桜の支援も行いセンター機能を発揮した。 ④⑤学校公開・授業公開共に計画的に実施してきた学校施設も9団体が利用している。 ⑥ホームページのリニューアル、地域向け学校便りの配布等積極的な情報発信に努めた。 ⑦メール配信システムの整備を進めた。95%が学校の危機管理体制にほぼ満足との回答だった。	B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成26年 2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ポニーを活用した授業の実施に向けては、まだまだ調教が必要な段階ではあるが、今年度、全職員による飼育体制が確立できたことは今後に期待が持てる。 ・学校の取組に対する保護者アンケートでは「概ね満足」以上が全項目において8割以上となっていることは学校の努力によるところと捉えることができる。しかし、学部によって評価の低いところがある点についてどう捉えているか。 ・児童生徒に、たくさんの経験をさせようとする取組は大いに評価できる。子どもたちの生きる力の育成に役立っているのではないかと。 ・高等部生徒の増加に対する対応策については何か考えているのか。 ・支援籍学習とは何か。支援籍学習の教育的効果は何か。 ・メール配信などの危機管理体制が整備されてきたことは大いに評価できる。メール配信に対する保護者の反応はどうか。学校の意図を理解してくれているか。 ・適正就学の実施に向けて、市教委や保護者との連携はどのように取り組んでいるか。 ・今年度から実施した自治会等への情報発信は地域と一体となった学校づくりには必要なことである。今後もぜひ継続して行ってほしい。 	

